



令和6年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No20)

# かじやま



かんだうがいっぱい じまんがいっぱい やる気じゅう分 毎日が楽しい 梶山小

R7.1.24(金) : 文責 校長

## ❖「自己決定力」の話(その3:「自己決定力」が育つ親の関わり方)❖

■子どもの「自己決定力」を育むには、親としてどのような関わり方をすればいいのでしょうか。「それは、理想だ」と思われる部分もあると思いますが、No.20では、「自己決定力」に関する本に書かれていたことと、私の経験を織り交ぜながら、提案させていただきます。

### ◆「子どもの「？」(はてな)を一緒に考えてみる」というのは、どうでしょう！



「自己決定力」は「自分で考える力」にもつながり、どちらも同じくらい、これからの時代に求められる力です。自分で決めようと思えば、自然と考えることになります。子供が物事を決定する時に、親に「どうして？」と問いかけることはよくあります。子供に聞かれたら、答えられることには、できる限り答え、選択の情報を提供すればいいのではないかと思います。分からないこともあるし、答えを出さない方がいい場合もあります。その時は、「そうだね。どうしてだろうね。」と、まずは受け止めて、「そんなこと、考えたこともなかった！」と切り返してもいいと思います。質問のレベルが上がっていく場合は、決して逃げずに一緒に考えることが大事だと思います。そうすることで、考える力が鍛えられ、結果的に「自己決定力」を育むことにつながると思います。

### ◆「子どもの興味関心の対象を、一緒に見つける」というのは、どうでしょう！

子供は、自分の好きなものなら、自分で決めたいと思います。「子供がどんなことに集中して、夢中になっているのかを観察することが大事だ」と本に書いてありました。そして、子どもの興味関心が分かったら、「その分野から、子どもの主体性を発揮できる環境を整えてあげることが、親の役割だ」とも書いてありました。例えば、子供が考古学に興味がありそうだったら、考古博物館や発掘調査現場に連れて行ったり、考古学について、一緒に調べたりするのもいいですね。心の中で、じっくり好きなものを味わいたい子供や感情を表に出すのが苦手な子供など、子供の個性はそれぞれ違います。まずは、子供の様子をじっくり観察し、我が子の好きな世界、興味関心のある世界の中で、「自己決定力」を身に付けさせていくことが大事だと思います。

### ◆「子どもの自己決定を待つために、心に余裕をもつ」というのはどうでしょう！

「外食等で、親の希望など関係なく、子供自身に自分が食べたいものを選ぶ先に選ばせる！」ことを提案している教育者もいます。親は、つい先回りして、子供のメニューを決めてしまいがちですが、それが続くと、自分が食べたいものが分からない子供になってしまいます。そこで、子供が自分で決めるまでは、親は辛抱強く待つことも大事だと思います。そうは言っても、子供の気持ちをじっくり聞いたり、子どもの決定を見守ったりできない時もありますよね。仕事や家事で忙しくしていたら、心も体も余裕がなくなります。親自身が心と体の健康を維持し、ゆったりとした気持ちで、子どもの「自己決定力」を見守ることが大事だと思います。なかなか難しいことですが。



偉人の名言・格言

☆◇行く言葉が美しければ、帰る言葉も美しい<韓国のことわざ>